

すっかんほ。

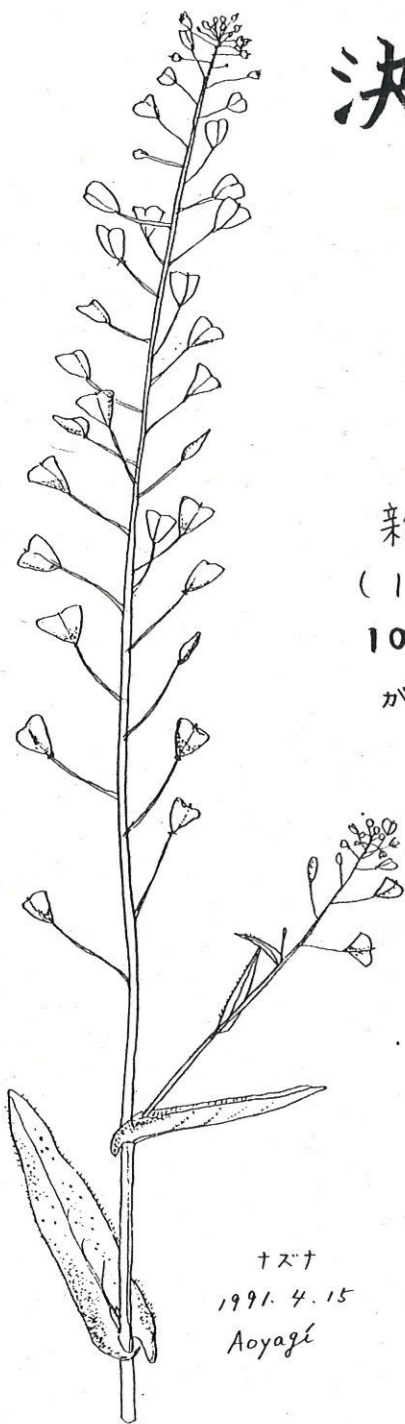
1991. 4月号

決定!

春の野草

Best 10

新1年生の宿題として出された野草のスケッチ (1人3種) を集計した結果、以下のように Best 10 が決定した。大方の予想通り、タンポポ が健闘しているが、それを押えて、ナズナ が堂々の1位になったのは、ちょっと意外だったかな。



ナズナ
1991. 4. 15
Aoyagi

第1位	ナズナ	103票
2	タンポポ	77票
3	ホトケノザ	62票
4	スズメノカタビラ	49票
5	オオイヌノフグリ	26票
6	カラスノエンドウ	23票
7	オオバコ	22票
8	スミレ	19票
9	ヨモギ	17票
10	ハユベ	16票

全部で 61種
(種不明... 146)

1. ナズナ (ペンペン草)

愛する菜という意味の撫菜がナズナになったという説や、朝鮮で古くからナジといい、日本で「ナジの菜」からナズナになったという説などがある。果実の形を三味線のバチにたとえて、ペンペン草ともいう。また、中国では古くから薬食として珍重され、現在の日本でも民間薬として利尿、止血などに使われているようである。(山溪ハンディ図鑑「野に咲く花」より)

2. タンポポ

タンポポと一口に言っても、いろいろある。この辺で見られるものは日本の在来種であるカントウタンポポと帰化種の

セイヨウタンポポ。さらには、西日本の在来種であるシロバナタンポポも進出している。佐高で今一番多いのは、このシロバナだ、

カントウとセイヨウの見分け方は、花の付け根にある緑色の総苞片がそり返っているのは、セイヨウ、そうでなければ、カントウ(在来種)である。

セイヨウタンポポは、明治時代に渡来して以来、急速に全国に広がってきている。その理由は、受粉せずに結実できることが大きい。つまり、受粉のために昆虫の助けが要らないのだ。このことは、都市化による環境の悪化にも強いことを意味している。

この武器を生かし、都市部ではセイヨウが勝利を収めているが、逆に自然が残っているところは、まだまだ在来種ががんばっている。

この辺でも、ちょっと道路をはずれると、風にそよぐカントウタンポポとみることもできるのは、うれしい。

心なしかカントウの方が、小ぶりでも、繊細でやさしうに見えるのは、決して気のせいではない。



カントウタンポポ
1991. 4. 17
Aoyagi

3. ホトケノザ (サンガイブサ)

仏の座 三階草

葉っぱも仏の座ゆる。蓮座に見たてたところからきている。また、別名の三階草は、葉が段々についていて、三階立てのようにみえることによる。

1- の鶴澤君のスケッチは、全体のはえ方がよくわかる優れたものだ。なお、この草は、ふつう食べない。



鶴澤

4. スズメノカタビラ 雀の帷子

一番おなじみの雑草で、よく草むしりをした。わりと抜きやすいので、憎めない雑草である。スズメノ...とは、「小さな」という意味で使われており、これより大型な、カラスノカタビラというのもあるそうだ。

スズメノカタビラ
1991. 4. 16
Aoyagi



5. オオイヌノフグリ 大犬の陰囊

いくら実が犬の陰囊に似ているからといってそれが、本当の名前になると、少し情ない。でも、この青い花は、美しい。

堀江君は、芸術的センスあふれる立体的なスケッチを書いてくれた。



堀江

6. カラスノエンドウ

リッパカマメ科植物で、3cmくらいのサヤができる。油で揚げて塩をふいて食べてみたが、おいしかった。

川森君のスケッチは、バランスがよくとれている。



小森

8. スミレ

スミレは実は種類が多く、何スミレかよくわからないことが多い。

吉沢君のスケッチは、きれいに彩色されており、芸術品である。



吉沢

9. ヨモギ



1-2
三柴

草もちに入れたりするが、天ぷらにしても、独特の味がある。けいこういける。スケッチもおいしそうに書けている。

7. オオバコ

カエル、菜とも呼ばれている。薬用としても広く知られている。



安藤

安藤君は、花の書き方がうまい。

10. ハコベ

鳥のエサとしてよく使われているが、味噌汁の具としても食べられる。

松岡君のスケッチは、すきりしていい。



松岡